
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』 第 358 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2013.10.04（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,081 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> あなたは『はだしのゲン』を読みましたか? 塩谷哲夫

<山崎農業研究所 37 回山崎記念農業賞表彰式

および総会記念講演（速報要旨）>

2. 総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

(1) クリーンな発電としてのローカルエネルギー

渡邊博氏 山崎農業研究所幹事

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.130』発行されました

<編集後記> 「日本を、取り戻す。」?

<巻頭言> あなたは『はだしのゲン』を読みましたか?

我が家の書庫には、中沢啓治の『はだしのゲン』の 1975 年の初版本（第 1～4 巻）がある。取り出してみると、子供たちが何回も読み返したらしく、手垢で汚れていた。

松江市の市立小学校図書室における閲覧制限からはじまった一連の騒動のなかで、この本がまた陽の目を見ることができたのは幸いであった。結果として、この本を子供たち（いや、むしろ大人たち）から隔離させようと企んだ人々の思惑は裏目に出てしまったのではないかと思う。

『はだしのゲン』は当初、全 4 巻で完結であった。したがって、本書の真髄はこの 4 巻に凝縮されているのではないかと思う。

第 1 巻。下駄の絵付け職人のゲンの父は、軍国主義一色の世の中で、戦争を批判し、反戦・平和を求める真っ当な姿勢を貫く。そのために本人も家族も「非国民」としてひどい目にあう。その父は、ついには米軍によって投下された原爆の業火に焼かれてゲンと母の眼前で弟とともに命を落とす。しかし、父

の思いはゲンや虐げられた人々の心に引き継がれて、その後の第2、第3、第4巻の随所に、ゲンや人々が、天皇を始めとする戦争推進者達の責任を糾弾する言動となって表わされる。

その後、第5巻から10巻は戦後の激動する世相のなかで、ゲンが成長して広島を後にするまでが書き足されている。

この本の非難者たちが、「残酷場面」だと指摘している（と、報道されている）のは、第10巻にある日本兵が中国で蛮行を働くわずか4コマである。

それ以上に“残酷”で忘れられないのは、第4巻までで描かれている、原爆の火に焼き殺される父や弟を見殺しにせざるをえなかったゲンや同じような思いにさいなまれた人々がもがき苦しんでいる場面、原爆で焼かれた人々のゾンビのような姿、ゴミのように扱われた死者達の姿など...ではないだろうか。

憲法を改めて軍隊を持った戦争のできる国にしようという人々、それに同調する人々にとって『はだしのゲン』を絶対“許せない”と思うのは、残酷場面よりも、この本を貫く反戦・平和の考え方なのではないだろうか。

でも、かつてこれを読んだときには、そんなことはあまり気にならなかったように思う。しかし、学校行事の際に「国歌」を歌わないと罰するとか、憲法改定の動きが現実味を帯びてきたなど、いつの間にか、歴史の反動化が進行しているように思われる当世の雰囲気、私に“危ないぞ”と意識させたのかもしれない。

それでも、世の中の意向は、大丈夫、しっかりしていて、悪巧をした彼らの意向を容認せずに、『はだしのゲン』は学校の図書室で自由に読める開架にもどった。

私は、今回の騒動の本質はここに、すなわち、本書の反戦・平和の思想をどうみるかにあると思っている。しかし、少なくとも新聞、テレビなどのメジャーなメディアでは、この“本当のこと”に言及する論調に出会ったことがない。軍国主義復活か、反戦平和主義の堅持か、日本将来を問う大問題なのに、表現上の問題として矮小化されてしまった。誰の仕業か知らないが、残念である。

塩谷哲夫

山崎農研幹事

yamazaki@yamazaki-i.org

<山崎農業研究所 37回山崎記念農業賞表彰式

および総会記念講演（速報要旨）>

期日：2013年7月27日（土）13：30～

場所：NTC インターナショナル

1. 山崎記念農業賞表彰式

(1) 選考委員長報告

(2) 受賞者ご挨拶

2. 総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

(1) クリーンな発電としてのローカルエネルギー

渡邊博氏 山崎農業研究所幹事

(2) ここまで進んだ小水力発電

新谷和男氏 NTC コンサルタンツ・小水力発電グループ代表

2. 総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

(1) クリーンな発電としてのローカルエネルギー

渡邊博氏 山崎農業研究所幹事

原発事故以来、原発における電気料計算の方法が変わった。今までのkWあたり5～6円が約9円になった。原発発電コスト計算の方法は非常に複雑である。しかしその実態は現実と異なる。本当に安価なのか。今までに生じた原発事故は無数に生じているが、その全体は発表されていない。このような危険な原発に頼る現在の考えに発想の転換が求められる。

脱原発と多様なエネルギーへの転換である。わが国のエネルギー消費量はGDPに必ずしも相関したものではない。エネルギー自給率は日本は20%程度で、水力が主である。また新エネルギーの利用は、まだまだ極めて低い。

わが国でも火力発電への依存が高まっているが、再生可能エネルギーのポテンシャルとしての風力は極めて高い。また、農村の水力も出力は大きくはないが、水利権問題を除けば過疎地のエネルギー源として広く、有効に使える。

太陽光、地熱、様々なエネルギーを組み合わせることで実用性は高まる。今後は多面的にローカル・エネルギーを用いてリスク分散と共に、電力の地産地消を心がける必要がある。そのための小エネルギー社会の構築が急がれる。

（文責 安富・田口）

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.130』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.130』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。
yamazaki@yamazaki-i.org
までご連絡ください。

目次（抜粋）

《土と太陽と》（巻頭言）

山村の未来を思う◎栗田和則

[第 144 回定例（現地）研究会]

ワークショップ：「果樹王国ふくしま：産地再生に向けて」

・研究会の概要

【基調報告】ベラルーシ現地視察をふまえて◎今野文治

【解題 1】住民参加型産地再生・再興へ◎小泉浩郎

【解題 2】放射性物質：汚染・除染の考え方◎渡邊 博

【解題 3】産地再興：歴史に学ぶ◎石川秀勇

【解題 4】風評被害：そのメカニズムと対策◎家常 高

○分科会報告

○参加者の声（櫻井 勇／益永八尋／佐々木哲美）

[特別寄稿]

畜産を農業に回帰させ持続する農業を構築しよう◎本田廣一

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(3)人間中心主義への批判◎宇根 豊

〈農村定点観測〉

○ミズバショウの里のむらづくり／山形県・照井栄市

○高温対策に備えた稲づくり／新潟県・吉原勝廣

〈追悼・山田民雄さん〉山田民雄君は劇作の先立ちだった／松坂正次郎

<編集後記> 「日本を、取り戻す。」？

「日本を、取り戻す。」とは、先の参議院選頃からの自民党のスローガンである。

いやいや、それにしても、だ。消費税増税や TPP、原発事故対応、集团的自衛

権の解釈変更のうごきなどを見ているとウンザリしてこないか。

消費税増税は当初、社会保障の充実と財政健全化を目的にされていたが、そこに公共事業などにも使えることがスルリと盛り込まれた。企業に対しては減税措置がとられるというが、一方で年金生活者や非正規雇用者への配慮は希薄である。軽減税率への議論も先送りにされた。

ちなみに、消費税率5%で国の税収に占める割合は20数パーセント。この比率は、高消費税率国として知られるヨーロッパと「すでに」ほとんど変わらない。

TPPも、メリット・デメリットについての議論も中途半端なまま「乗り遅れては…」の一点張りで参加交渉に突入、また福島第一原発事故の収束の目途も立たないなか原発再稼働への道がひらかれようとしている。さらには、集団的自衛権の解釈変更路線（発言）によって周辺諸国との緊張が高まりつつある。

「富国強兵」。そんな古めかしい言葉が頭にうかぶ。国民生活を犠牲にしても、国としての経済的・軍事的な強さをめざす。その裁量権はどこまでも政府・与党、そしてそこに連なる財界にある。彼らの言う「日本を、取り戻す。」が目標にするのは、そういう国家なのではないか。だとすれば、時代錯誤もはなはだしいと言わざるをえない。

2013年10月02日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”
「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考 ―グローバル化の次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎小谷敏さん（大妻女子大学）

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）

◎塩見直紀さん（半農半X 研究所、執筆者）

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 359 号の締め切りは 10 月 15 日、発行は 10 月 17 日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 358 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2013.10.04（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****